

ベネッセアートサイト直島 ～ 直島メソッドとは ～

多くの地域が過疎化・高齢化や環境破壊などの課題を抱え、政府による地方創生が重点施策として注目されている中、人口3200人、高齢化率3割、面積8km²しかない瀬戸内海にある「直島」には、毎年約40万人以上の観光客が訪れている。「直島メソッド」と呼ばれるこの取り組みは、過疎や環境破壊などで傷ついた地域を、瀬戸内の自然や、島々で営まれてきた「歴史」、「生活」に焦点を当て、建築や現代アートを媒介とし、地域の魅力を最大限に引き出すことで、住民と一緒に地域を再生していく、先駆的なFMモデルである。



自然
瀬戸内海



建築・美術
現代アート



人
島民と
来島者



島
歴史・生活

4つのキーワード

1、「地域との連携」

島民との共同参画型の活動を行うことで、地域住民や自治体を巻き込み、プロジェクトマネジメントを行いながら、現代アートを媒介とした島の魅力を発信することで地域の活性化をはかっている。



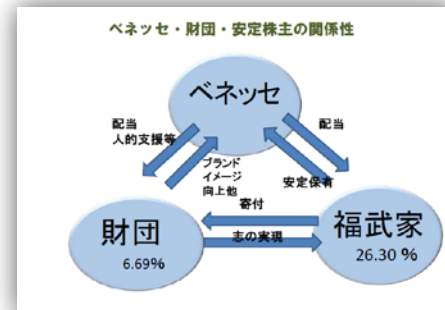
2、「在るものを活かし、無いものを創る」

スクラップ&ビルドによる破壊と創造を繰り返す仕組みから、その土地や地域に存在する古民家などを再生し、新しい価値を生み出す、環境に配慮した、持続的なりノベーションモデルを展開している。



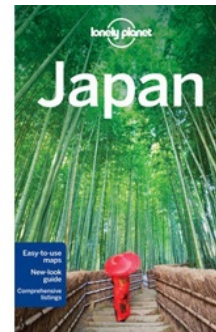
3、「公益資本主義」

企業が、文化や地域振興を明確な目的とする財団を創設し、その財団が株式会社の大株主になり、そこで得られた配当を資金として、社会に貢献出来る仕組みを目指す、新しい経営概念による運営。



4、「国際化」

直島に訪れる観光客の約4割が外国人。海外旅行誌などの高い評価や海外での口コミにより、外国人観光客が増加している。民宿やカフェなどで、島民が英語で外国人を案内するなど、過疎の島において、グローバル化現象が進行している。



直島から瀬戸内へ ～地域活性化の展開～

1988年
直島文化村構想



2008年～2010年
近代化遺産、産廃の島へ



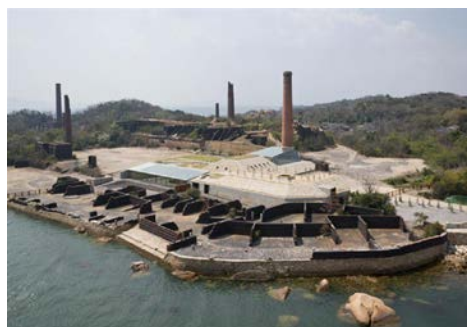
2010年～2014年
直島から瀬戸内へ



1992年 ベネッセハウス



2008年 犬島精錬所



2013年瀬戸内国際芸術祭
観光客数107万人（108日間）



2004年 地中美術館



2010年 豊島美術館



芸術祭がきっかけとなり、
男木小中学校が再開

